

みんなが知らない /
モザンビークのこと

ワークシート

1. 「モザンビーク」の冊子を読んで、興味をもったこと、
 疑問に思ったことは何でしょうか。

.....

.....

2. モザンビークがかかえている課題を解決するために、
 どういう取り組みをしたらよいと思いますか。
 あなたの考えを書きましょう。

.....

.....

3. 将来、モザンビークで仕事をするとしたら、あるいは、
 モザンビークの人といっしょに仕事をするとしたら、
 どんな仕事をしてみたいと思いますか。それはなぜでしょうか。

.....

.....

年 組 氏名

2021年5月1日 初版発行
 発行：独立行政法人 国際協力機構(JICA)
 本書に関するお問い合わせ：JICAアフリカ部アフリカ第三課
 〒102-8012
 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
 Tel：03-5226-8215(年末年始土日祝日を除く9:30~17:45)
 E-mail：6rta3@jica.go.jp
 URL：https://www.jica.go.jp/

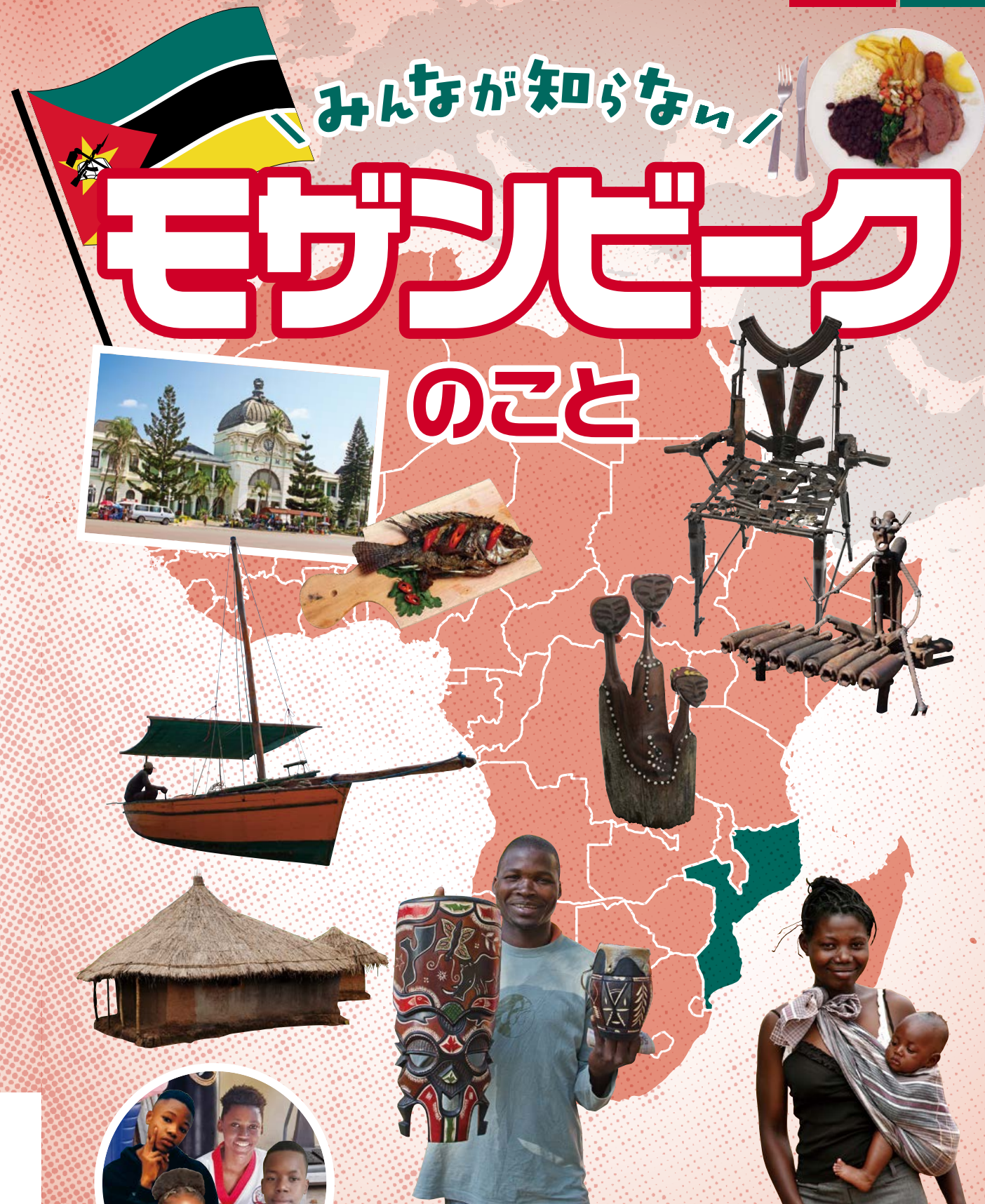


※国旗は、国連と同じく3:2のサイズで掲載しています。

監修：網中昭世(日本貿易振興機構 アジア経済研究所 研究員)
 落合雄彦(龍谷大学 法学部 教授)
 編集制作：株式会社 ワン・パブリッシング
 編集協力：株式会社WILL
 表紙写真：©JICA, ©Shutterstock.com,
 ©えひめグローバルネットワーク, ©国立民族学博物館

イラスト：伊藤美樹
 デザイン：chocolate.

国連SDGs HP(<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>)
 The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.



JICAは、日本の政府開発援助(ODA)を行う機関として、開発途上国への開発協力を実施しています。

日本との不思議な 縁を結んだ 海のシルクロード

インド洋に面し、2700kmもの長い海岸線をもつ国・モザンビーク。古くからアラブやヨーロッパ、アジアとの交易地として栄え、さまざまな人や文化が国のかたちをつくってきました。日本の戦国時代に織田信長の家臣となった黒人の侍「弥助」も、モザンビークの出身だったといわれています。

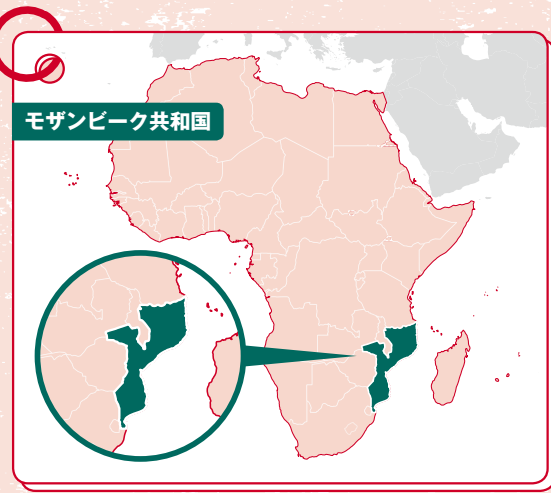
モザンビーク共和国 The Republic of Mozambique



国旗の由来

黒はアフリカ大陸、緑は豊かな国土、黄色は鉱物資源、赤と白は独立への苦闘と平和を象徴。紋章には星(社会主義諸国との連帯)、本(教育)、くわ(農業)、そして銃(国を守る精神)が描かれている。

~~~~~



## ヨーロッパとアジアを結ぶ 航路が「ドラマ」を生んだ

アフリカ東海岸に位置するモザンビークには、すでに8世紀ごろからアラブ人が訪れ、金や象牙などの交易が始まりました。

その後、現在のジンバブエあたりにあったといわれているモノモタパ王国の金と、インドやペルシア、中国などの品々を交換するインド洋貿易の中継地として栄えました。15世紀になると、ヴァスコ・ダ・ガマに始まるポルトガル人やスペイン人の来航が続いて、ヨーロッパとの交易も盛んに行われるようになり

大航海時代から現代まで、インド洋に面した沿岸の都市は、ヨーロッパとアジアをつなぐ海のシルクロードの中継地として栄えてきた。

戦国時代に黒人が奴隷として日本に来ていたことは、この屏風絵からもわかる。そのうちの一人を織田信長は気に入り、「弥助」と名づけ、特別な待遇をしたという。



「南蛮屏風」(部分) © RMN-Grand Palais/digital file by DNPartcom

15~17世紀に使われたヨーロッパとアジアを結ぶ航路。日本の天正遣欧使節団は、下の地図のルートをとってヨーロッパを往復した。



ました。

さらに16世紀に入ると、ポルトガル人の入植が始まり、モザンビークはインド洋貿易の拠点の一つに。世界各地を訪れる商人やキリスト教の宣教師たちも、奴隷を従者として連れて旅をするようになりました。

そんな奴隷の一人が、戦国時代の日本へやって来た「弥助」。およそ450年も前に、アフリカの人が日本で武士になるという、想像をはるかに超えるドラマを生み出したのです。

時を経て20世紀になると、モザンビークでは植民地支配に抵抗する独立戦争が1964年に始まり、1975年には念願の独立を果たし

ます。しかし、1977年から再び内戦に突入。1992年の内戦終結までには、100万人以上の人々が戦闘や飢餓のために亡くなり、国民の約3分の1が国外へ避難。残された人々や国土も極めて大きな被害を受けました。

それでも復興が始まると、天然ガスや石炭などの豊富な資源やアルミニウム生産を軸に、経済は急速に回復。近年になってまた、北部の一部の地域には戦闘があるものの、国の最南端にある港町・首都マプトをはじめ、北部のナカラ、中部のベイラなどの港町は発展を続け、再び世界中の異文化とつながり始めています。



首都マプトで味わえる世界各国の料理。カレーやシーフードを使った料理が人気。

©JICA

## 異文化が溶け合う港町と 経済発展の遅れている北部地域

インド洋に向かって開けた明るい港町には、開放的で自由な雰囲気が風景や人々、文化の中にも溶けこんでいます。

首都マプトは人口約100万人のコンパクトな街ですが、モザンビーク料理はもちろんのこと、ポルトガル、イタリアをはじめとするヨーロッパ諸国、アラブ、インド、アジア、アメリカ合衆国など世界中の料理を楽しめるレストランがそろっています。中でも新鮮なシーフードを使った料理と、ポルトガル植民地時代の影響を受けたスイーツのおいしさは有名です。

街の風景は新しいビル群によって、近代的な表情に変わりつつありますが、点在する植民地時代のコロニアル様式の建物が、シックでエレガントな彩りを加えています。

一方、首都の復興と繁栄から取り残された北部地域では、今も農業を中心とした自給自足の生活をする人が少なくありません。

農村には、家畜をほかの食品と交換したり、農作物を必要な生活用品と交換したりするなど、いまだに大らかな物々交換の文化が残っています。しかしそこには、医療や教育、インフラ、安全な水へのアクセスや男女格差の問題など、モザンビークがこれから乗り越えていかなければならない、数多くの課題もまた、残されているのです。

農村部では、電気や水道の普及率も低い。

©naTsumi / Shutterstock.com



©Fedor Selivanov / Shutterstock.com

マプト中央駅の優美な駅舎。

## 貿易風が運んだ日本とモザンビークの人々

### モザンビーク→日本

#### 織田信長の家臣になった「弥助」

日本の戦国時代、織田信長の家臣に黒人の侍がいたことを小説やドラマで知った人もいるのではないのでしょうか。彼の名は「弥助」。ヨーロッパの宣教師の従者として日本へやって来た弥助は、現在のモザンビーク周辺の人であるといわれています。

彼がイタリア人宣教師・ヴァリニャーニの従者として信長に面会したのは、天正9年(1581年)のこと。信長に仕えた家臣によって書かれた『信長公記』には、「切支丹国から黒人が来た。年は26~27歳くらい。体は牛のように黒く、健康で、十人力の力持ちである」と記されています。

信長はこの男を気に入り、のちに「弥助」という名前や刀、禄(給与)を授け、奴隷ではなく家臣として召しかかえることに。そしてとも



マプトの観光名所のひとつ自然史博物館には、日本で侍になった弥助を描いた絵が展示されている。

©JICA 絵の作成:TECNICA INDUSTRIAL, SA

に戦国の世を戦っていくのですが、残念なことにその活躍が記された史料はなく、信長の死以降の消息もはっきりとはわかりません。

しかし「戦国時代に活躍した黒人の侍」は、歴史ファンのロマンをかき立て続け、次々に新しいフィクション作品を生み出しています。

### 日本→モザンビーク

#### 「天正遣欧少年使節」は10代の少年たち

ポルトガル領のモザンビークを初めて訪れた日本人もいます。それは伊東マンショ(13歳)、千々石ミゲル(13歳)、原マルチノ(13歳)、中浦ジュリアン(14歳)の4人の少年を中心とする、天正遣欧使節です。

日本へキリスト教を広める責任者であった、



今の時代なら中学生だった、天正遣欧使節の少年たち。

©Alamy / PPS通信社

イエズス会の宣教師・ヴァリニャーニは、さらにそれを進めるため、キリシタン大名の名代(代理)として、ローマ教皇のもとへ、日本からの使節(使者)を送ることにしたのです。

少年たちは宣教師らにつき添われて1582年に長崎を発ち、インドを経て喜望峰を回り、2年半かかってポルトガルに到着します。スペイン、イタリアのトスカナ公国(フィレンツェ)で歓迎を受けた後、1585年にローマ教皇に面会。ローマでの滞在を経て、帰る途中の1586年に、モザンビークに立ち寄りしました。

そこで食料などを調達し、インド経由で帰国する予定でしたが、風向きが変わるのを待って、約半年をモザンビークで過ごすことになりました。少年たちの目に、モザンビークはいったいどんなふう映ったのでしょうか。



# モザンビークって どんな国？

公用語のポルトガル語であいさつしよう！

オブリガーダ  
**Obrigada.\***  
ありがとう。  
\*男性が言う場合は  
「Obrigado」

ボン ディーア  
**Bom dia.**  
おはよう。

コモ エスタ  
**Como está ?**  
元気ですか？

Q どんなものを  
食べているの？

**A** 魚料理が多いですが、  
鶏肉料理も食べます

海岸線が長く、魚介類が豊富です。エビなどは日本にも輸出しています。主食はとうもろこしの粉を練った「シマ」や米。ポルトガル料理の影響を受けた鶏肉のグリルなどもあります。



シマ、煮豆、鶏肉、芋などを盛りつけた、農村の典型的なワンプレート。

Q 日本で手に入る  
モザンビークのものは？

**A** カプラナと呼ばれる布を  
使った雑貨など

アフリカの伝統的な布は世界で注目されており、モザンビークでは「カプラナ」と呼び、洋服の生地として使ったり、頭や腰に巻いたり、赤ちゃんの抱っこひもとして使ったりします。カプラナに限らずアフリカの布は、海外や国内ブランドなどで広く使われています。



華やかですてきな模様のカプラナ。

Q モザンビークでは  
どんな音楽が人気？

**A** 特に人気があるのは  
ダンスミュージック

アフリカンミュージックはビートがきいたリズムカルな音楽が主流で、ビートに合わせてダンスをします。マラベンタというダンスミュージックは特に人気があります。

くわしくは▶13ページ



人が集まる祭りなどではダンスが欠かせない。

Q 最近気になっているのは  
どんなこと？

**A** 近年、  
災害が多いことです

台風さらされやすい地形で、2019年には「サイクロン・イダイ」が上陸、大きな被害に。雨季には川の下流域で洪水が起こりやすい一方、乾季には干ばつに悩まされています。

くわしくは▶14ページ



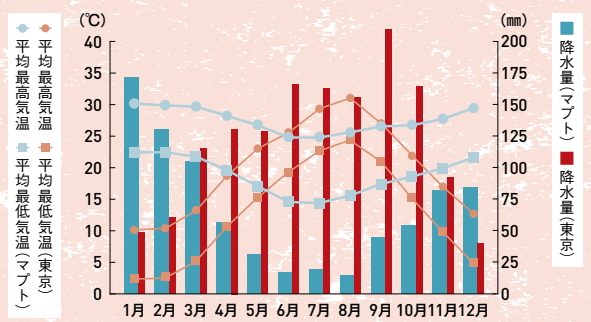
サイクロンの後に起きた洪水の被害。

## データで見るモザンビーク

- 基本情報**
- 人口：3037万人(日本の約1/4)(2019年国連)  
[東京都1390万人]
  - 面積：79.9万km<sup>2</sup>(日本の約2.1倍)
  - 人口密度：38.6人/km<sup>2</sup>(2019年国連)  
[日本348.0人/km<sup>2</sup>]
  - 首都：マプト
  - 言語：ポルトガル語(公用語)、マクア語、セナ語、ツォンガ語ほか
  - 宗教：キリスト教(約40%)、  
イスラム教(約20%)、伝統宗教

## ●年間平均気温と降水量(マプト)

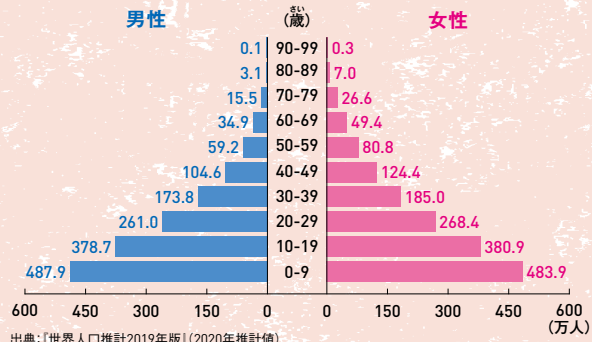
マプトは亜熱帯気候です。雨季と乾季があり、乾いた夏は過ごしやすい気候。北部は熱帯で、乾季には10℃を下回る。



出典：世界気象機関

## ●人口構成(2020年)

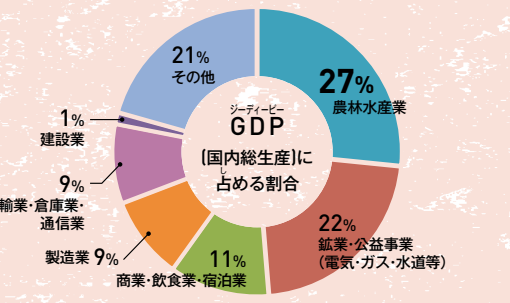
ピラミッド形の人口構成です。出生率は高いですが、栄養不良や病気などでの死亡率も高いのが特徴です。



出典：「世界人口推計2019年版」(2020年推計値)

## ●主な産業(2019年)

農業や水産業が盛んです。石炭や天然ガスを多く産出することでも知られています。



出典：国民経済計算データベース

もっと知りたい！  
モザンビーク①

# 教えて！ モザンビークの中学生のこと

こんにちは！  
ぼくたちのことを紹介します！



教えてくれたのは

**ウェズリー・ステリオ・チングアンさん**  
サン・ダマスコ中等学校の11年生、16歳。

学校は朝6時から昼までの  
6時間授業だよ！



教えてくれたのは

**トニー・ダグラス・ランガさん**  
マンジャカゼ中等学校の10年生、15歳。

# 教えて！

Q 放課後は何をして過ごすの？

A チュバっていうゲームをやることが多いかな。あとは、母の手伝いをするよ。

チュバは、アフリカや西アジアなどで紀元前から遊ばれているボードゲームです。戦略性が高く、現代でも人気です。



©ivanfolio / Shutterstock.com

Q 日本のことは知っていますか？

A 父から、侍の話聞いたことがあるんだ。空手の映画も見ただことがあるよ。

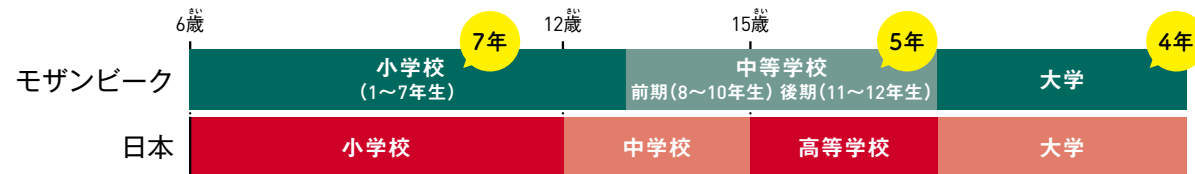
Q どんなものが好きですか？

A フライドポテトとハンバーガーのセットが好き。スポーツならバスケットだよ。友達とはアフロダンスをして過ごしてるんだ。

Q 将来は何になりたいですか？

A 土木技師になりたいと思ってるよ。

学校制度



エッグタルトが大好きなの！  
とってもおいしいのよ



©Formatoriginal / Shutterstock.com

教えてくれたのは

**ジズリーン・ウィリアモさん**  
サン・ガブリエル中等学校の12年生、16歳。

ぼくはテコンドーには  
まってるんだ！

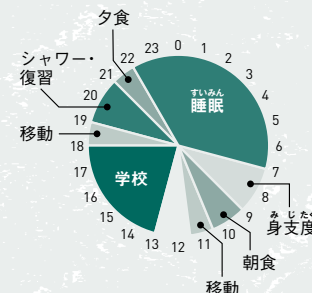


教えてくれたのは

**マックス・エリシオ・チウンゼさん**  
サンタ・アナ・ダ・ムンファナ・コミュニティ学校の11年生、16歳。

Q どんなふうに一日過ごすの？

A 学校は午前と午後の2部制で、私は午後のクラス。週末は、家のお手伝いや散歩したり、友達と遊んだり。授業の復習をすることもあるよ。



モザンビークは子どもの数が多く、学校や教師の数が足りていません。そこで学校では、生徒を午前と午後に分けて、同じ授業を受けられるようにしています。

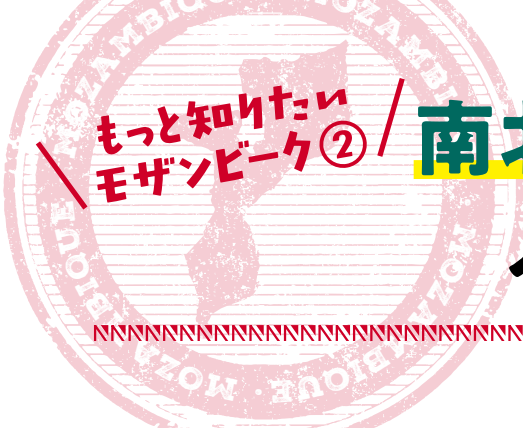
Q 学校の時間割を教えて！

A 公用語のポルトガル語のほかに、英語とフランス語も勉強するんだ。

|             | 月  | 火      | 水  | 木      | 金     |
|-------------|----|--------|----|--------|-------|
| 7:00-7:45   | 数学 | フランス語  | 化学 | 農業     | 起業力教育 |
| 7:50-8:35   | 数学 | 歴史     | 生物 | 農業     | 起業力教育 |
| 8:40-9:25   | 生物 | ポルトガル語 | 学活 | 地理     | フランス語 |
| 9:45-10:20  | 歴史 | ポルトガル語 | 数学 | 英語     | 地理    |
| 10:25-11:20 | 英語 | 体育     | 数学 | ポルトガル語 | 美術    |
| 11:25-12:20 | 英語 | 化学     | 体育 | ポルトガル語 | 美術    |

「起業力教育(Entrepreneurship Education)」という授業は、起業するのに必要な能力や、それを成し遂げるための情熱を育成する教育です。マネジメント力やリーダーシップ、コミュニケーションなどを学びます。

中学生写真©JICA

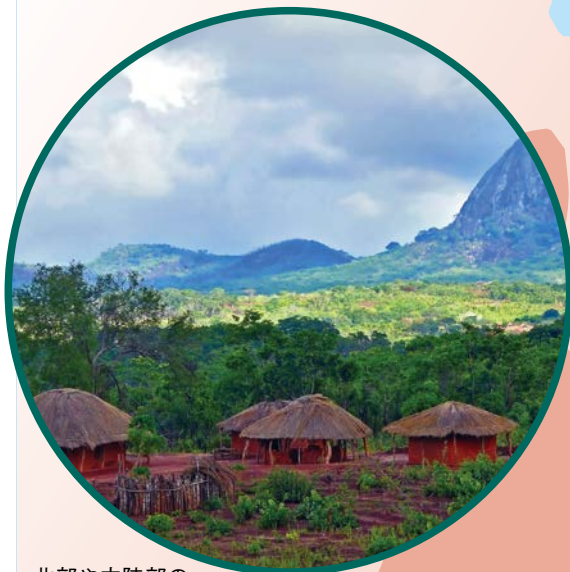


# 南北に長い国土と人々の暮らし

## 人口の多くは、北部や内陸部の農村で自給自足の生活

モザンビークは南北に長い国です。南部の首都マプトや、第2の都市といわれるベイラなど、沿岸部の港町を中心に経済が発展しています。

一方、北部や内陸部は農村地帯です。全人口の8～9割が住んでいて、多くの人が自分で食べるための小規模な農業を行っています。少し多めにつくった作物を市場で売り、野菜や魚を手に入れるのが一般的。このように国の南部・北部、また都市部、農村部で経済的な格差があります。



北部や内陸部の一般的な農村風景。

©Svetlana Arapova / Shutterstock.com



ベイラ

©JICA

首都マプト

### 【主な農作物】

小規模な農業を営む農家では、主食となるとうもろこしやキャッサバという芋を栽培しています。中には、輸出用にカシューナッツ、綿花、ごまなどを生産する大規模な農園もあります。



とうもろこし



キャッサバ



さとうきび



ごま



カシューナッツ



綿花

©Shutterstock.com

ナカラ



©日本植物燃料

アプリを使って、電子マネーを管理。

## 北部には鉱物資源が多いが、過激派による戦闘も……

北部では、天然ガス、石炭、ルビー、リチウムイオン電池の原料となる天然黒鉛といった鉱物資源が豊かです。これらの資源開発には、外国企業も多く参入しています。日本の企業も、液化天然ガスの生産を目指して、開発を進めています。

しかしこの地域では、2017年ごろからイスラーム急進派(過激派)による戦闘がひんぱんに起こるといった問題をかかえています。およそ50万人以上の住民が避難しなければならない状態が続いています。

## 農村部でも意外にデジタル化が進んでいる！

農村部と都市部では、住居の形が違います。農村部には、かやぶきの家や土壁の家などに住んでいる人もまだまだたくさんいます。一方で、ICT(情報通信技術)を取り入れた生活も見られます。電気が通っていない農村部では、充電に使う電力は、ソーラーパネルで発電しています。電子マネーの活用も、日本より進んでいます。盗難の心配が少なく、災害時になくしてしまうことなどもないことから、現金よりも重宝されているのです。

### JICAの協力

#### 栄養でみんなをつなぐプログラム

北部の農村部・ニアッサ州で、JICAは、水・衛生分野、保健分野、農業分野で連携して、栄養不良改善に取り組んでいます。

井戸やトイレの建設により、安全な水が利用でき、衛生状態が改善することで病気の予防につながります。また、栄養価の高い、売れる野菜を栽培し販売することで、農家の収入向上と栄養改善が期待されます。



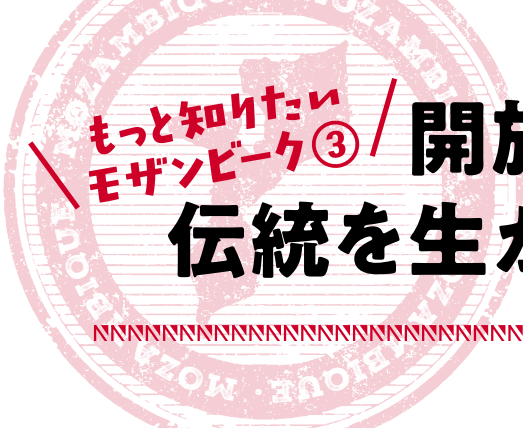
©JICA

安全な水へのアクセスを実現。



栄養改善は食事から。

©JICA



# 開放的で多彩！ 伝統を生かした自由なアート

## 長い内戦の経験から、 平和を訴えるアート作品が誕生

モザンビークでは、ポルトガルからの独立後、16年も内戦が続きました。1992年に終結したものの、用いられた武器は残り、武器の使用による混乱はやみませんでした。そこで1995年、市民団体が中心となって自ら武器を回収し、農具や自転車、ミシンといった生活必

需品に交換するという「銃をくわに」プロジェクトが始動。回収された武器の95%は爆破処理され、残りの5%は現地のアーティストの手により、平和を訴える「武器アート」へと生まれ変わります。冷たい武器から生まれた温もりある作品は、日本でも紹介されました。日本のNPO法人「えひめグローバルネットワーク」は、武器と交換するための生活必需品を提供するなど、このプロジェクトへの支援を続けています。

武装解除を進めるとともに、人々の心に平和を根づかせる「武器アート」。銃などのパーツをつなぎ合わせて作品がつけられている。左は「肘掛椅子」、右は民族楽器ティンビラを演奏する様子であらわした「ティンビラ奏者」。



制作年：2012年  
制作者：クリストヴァオ・カニャヴァート(ケスター)  
国立民族学博物館所蔵

アーティストのケスター氏。



©えひめグローバルネットワーク



©えひめグローバルネットワーク

## 民族ごとに、それぞれの文化に根ざした伝統舞踊も

開放的で陽気なモザンビークの人々にとって、ダンスと音楽は欠かせません。モザンビーク北部のマコンデ人は、「マビコ」という伝統舞踊で有名です。太鼓のリズムに合わせ、仮面をつけて踊ります。生活に関わる儀式の中でダンスをします。

モザンビークでは、独立後、政府が国立歌舞団を設立し、それぞれの民族の伝統舞踊を保護するとともに、モザンビーク独特の文化を生み出すことに取り組んでいます。



マコンデ人のダンス。テンポのよい太鼓のリズムに合わせて踊る。

## ユネスコ無形文化遺産に 登録されている「ティンビラ」

南部のチョピ人に伝わる「ティンビラ」は、2005年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。ティンビラは、音楽とダンスが融合した総合芸能。5〜30台のティンビラ(木琴)の合奏に合わせ、歌ったり踊ったりする総合芸能。

しかし、演奏者の高齢化や、楽器の材料となる木材の不足などの問題もかかえており、日本はユネスコを通じてその保存を支援しています。



ティンビラには、演奏、ダンス、歌を組み合わせた「ンゴド」と「ンガランガ」と呼ばれる演奏様式がある。写真は「ンガランガ」。

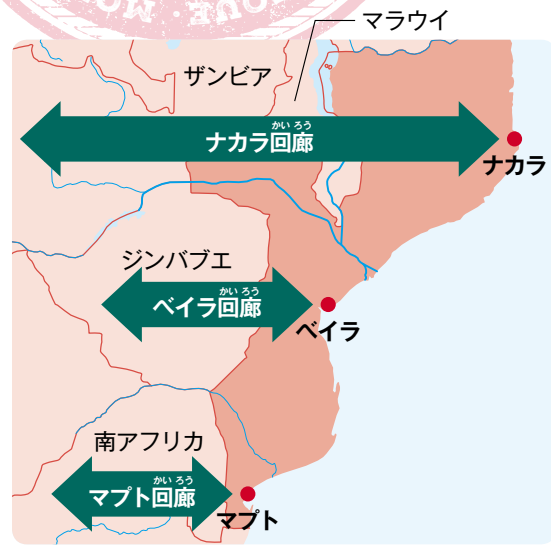
## 古くて新しい!? 伝統音楽をルーツにもつ音楽

モザンビークには、伝統音楽をルーツとしながら、外国の現代的なリズムや楽器を用いてモダンな形で発信する、独特の音楽文化があります。最も人気があるのは「マラベンタ」というダンスミュージック。伝統音楽に、ポルトガルの民謡と西洋のポップスがミックスされて生まれた音楽ジャンルです。歌詞には、独立までの物語や社会的なメッセージなどが盛りこまれることも多いといわれます。



「マラベンタ」はリズムカルな動きで、老若男女に人気が高い。

# もっと知りたい！ モザンビーク④ / アフリカの国々を 世界へとつなぐ玄関口！



## 海の玄関口となる3つの「回廊\*」

沿岸国であるモザンビークは、アフリカの内陸国を世界とつなぐ役割を担っています。港湾設備や道路を整備し、ものや人をスムーズに運べるようにすることが、アフリカの経済発展につながるとモザンビーク政府は考えています。

南部には、首都マプトと南アフリカを結ぶ「マプト回廊」、第2の都市・ペイラとジンバブエを結ぶ「ペイラ回廊」がすでに発展しています。そして現在、北部を中心とした「ナカラ回廊」の開発が進められています。

\*回廊…内陸国から国をまたいで拠点となる海港へとつながる交通路を指す。



んぱんに発生している原因の一つに、地球温暖化があるのではないかともいわれています。

## 海岸線が長く、 サイクロンによる災害も多発

海に面したモザンビークでは、サイクロン被害が多発しています。サイクロンとは、インド洋南部や太平洋南部で発生する熱帯低気圧で、台風のようなものです。サイクロンによって大規模な豪雨や洪水が発生すると、生活基盤が破壊されてしまいます。近年、その被害がひ

## JICAの協力

### 港の改修工事で経済活性化

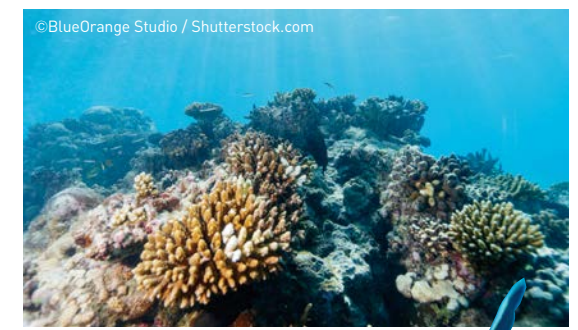
モザンビーク北部の港・ナカラ港周辺には、農業に適した広大な土地や、石炭などの豊富な地下資源が眠っています。JICAでは、ナカラ港をゲートウェイとして地域全体が経済回廊に発展するために、港の改修だけでなく、橋や道路、学校などの建設や整備も実施。また、教育、農業、保健・衛生分野へのサポートや、民間企業への投資を呼びかけています。



## 世界遺産のモザンビーク島。 海岸では海産物も豊富

モザンビークの海岸線沿いには、数多くの美しいビーチがあり、観光地としても人気があります。この国唯一の世界遺産であるモザンビーク島もその一つ。国名の由来にもなっている島で、歴史ある建築物も見られる観光名所です。

海岸では漁業も盛んに行われています。地元で消費される魚のほかに、エビの漁獲量が多く、日本にも輸出されています。農業と同じく、大半の漁民は小規模な漁業を行っており、地引き網や釣りなどの方法で魚やエビをとっています。



プリメイラス・セグンダ諸島には、さまざまな種類のサンゴや、絶滅の危機にあるウミガメ類も生息。

©sirtravelalot / Shutterstock.com



## 北部の島々は、 アフリカ最大の沿岸海洋保護区

豊かな海を守るため、モザンビークでは、多くの海域が保護区として指定されています。なかでも、北部から中部にかけて沿岸の205kmにわたるプリメイラス・セグンダ諸島は、アフリカ最大の沿岸海洋保護区です。

しかし、そのちょうど真ん中あたりの地点で、外資系企業によるレアアース\*の採掘が行われており、漁業や観光業へのダメージが心配されます。美しい自然と観光業をとるか、外国からの投資による利益をとるか……。モザンビーク政府は選択を迫られています。

\*レアアース…レアメタル(生産量が非常に少ない金属)の一種で、17種の元素の総称。スマートフォンや電気自動車などの製造には欠かせない材料。



©BlueOrange Studio / Shutterstock.com



伝統的な漁をする人。

©Joost van Uffelen / Shutterstock.com

## JICAの協力

### 魚市場建設で漁業を応援！

JICAでは、モザンビークの豊富な魚介類を国の発展に役立てるために協力しています。とれた魚介類を、新鮮なまま取り引きできれば、廃棄を減らし、海の資源も無駄にしません。効率よく売ることができれば、漁業にたずさわる人の収入を増やすこともできます。



©JICA